

100年に一度の進化するまちの様子をお届け

長崎MIRAISM

誰もみたことのない未来図を、いっしょに描こう。



今年も残すところあとわずか。山頂からすてきな夜景を見て、1年を振り返ってみては。

進化するまちの光を一望



中腹から山頂へ 稲佐山の夜景を満喫しよう

稲佐山スロープカーの開業で中腹と山頂との行き来がしやすくなった稲佐山。夜はスロープカーの車内がさりげなくライトアップされ、昼とは少し違った雰囲気。車内からは、世界新三大夜景に認定された夜景を見ることができ、山頂までの8分間は、まるで空中散歩のような時間を楽しめます。

展望台からの夜景には、9月に開業した西九州新幹線の駅舎の光が新たに仲間入りしました。膜屋根を照らす光が優しくまちに溶け込み、100年に一度の進化の時を迎えているまちの光を一望できます。



問い合わせ

広報戦略室 ☎829-1300

詳しくはホームページ・SNSをチェック!

長崎Miraism

長崎ミライズム

@MIRAISM3

長崎総合科学大学教授のブライア

長崎は常に「風の人」と「土の人」が交わってきたまち。だからこそ「風の人」の大切さを知っているまちでもあります。

* * *

随分前にパークガフニ先生がガイドをする「夜の国際墓地さるく」に参加したことがあります。暗くなった坂本国際墓地の中を歩きながら、一つ一つ墓碑銘を灯りで照らし、そこに眠る外国人の生前の物語を教えてください。ユニークなさるくでした。

一人ひとりの生きざまに感動すると同時に、先生のユーモアあるお話に何度も笑い声があふれるさるくでした。私の体験の中では思い出しに残るさるくの一つです。

遠い国から長崎にやって来た「風の人」たち。彼らの中には「土の人」に負けない本気で、長崎を愛し、長崎に貢献してくれた人たちがいました。パークガフニ先生もそんな長崎の恩人の一人だと思います。

市長の **ホット** とトーク

(今月のテーマ)
土の人 風の人



「土の人」「風の人」という表現があります。私が初めてこの言葉を聞いたのは「地元学」について調べていた時のことで、もう20年ほど前のことです。

その土地にずっと住んでいる「土の人」と、よそからやって来たり、よそに住んだりしたことがある「風の人」。まちを内側から観る人と外側から観る人の両方の視点があって、はじめてまちの本当の姿、風土が観えてくるということを教えてください。言葉です。両方の視点からまちの、あるもの探しをして、そこからまちを元気にしていこうという呼び掛けのためという言葉でもあります。



ブライアン・パーク
ガフニ先生

パークガフニ先生は、40年ほど前に長崎に移住されました。長年、長崎の外国人たちの足跡を研究され、彼らの長崎での活躍やまちへの貢献について明らかにしてくれています。

同時に、海外との交流が生んだ長崎独特の文化の価値についても教えてください。

それはまさに「土の人」だけでは見つけることが出来なかったものや気付かなかったことを教えてください。